

(2) Ohlone College(オーロニ大学)

1) 概要

カリフォルニア州フリーモント市にある公立2年制大学(図1)。フリーモント市は、サンフランシスコ空港から車で移動して約1時間で着く。オーロニ大学は、1965年に設立し、フリーモントキャンパスとニューアークキャンパスの2つがある。今回の視察先のフリーモントキャンパスは、フリーモント市を見渡せる丘の連なりを切り開いて作られている。

オーロニ大学では、フリーモントキャンパスとニューアークキャンパス、通信制あわせて毎年、19,000名の学生が入学している。また、障害学生は約500名入学しており、聴覚障害250名、学習障害165名、精神障害60名、肢体不自由45名、視覚障害23名、自閉症スペクトラム12名などの学生が在籍している。その障害学生の30%は2つ以上の障害が重複している学生であり、主に聴覚障害と肢体不自由、聴覚障害+精神障害などが挙げられる。聴覚障害学生が多い背景には、ろう教育学部(Center for Deaf Studies)や聴覚障害学生専門の支援サービス部門があることと、歴史的にもカリフォルニア州立フリーモント聾学校との深いつながりがあることと関わっている。

フリーモントキャンパスにある障害学生支援に関わる部局では、Student Services Center内にあるDisabled Students Programs and ServicesとCenter for Deaf Studiesの2つがあり、前者は、全障害学生に対する支援、後者は聴覚障害学生及び入学前段階での聴覚障害者に対する支援を行っている。それぞれの部局で中心的な役割を担っている方々に各部局の概要や高大連携についてインタビューを行った。

2) 障害学生支援と高大連携について

① Disabled Students Programs and Services

(障害学生プログラム及びサービス部門)

・概要

Disabled Students Programs and Services (図2)

代表の Ann Burdett 氏に、DSPS の概要と高校に対する

支援体制についてインタビューした。Disabled Students Programs and Services (以下、DSPS) は、あらゆる障害のある学生への支援サービス全般を担当する部局であり、代表の Ann を始め、カウンセラー2名、学習支援担当1名、学習障害専門担当2名、PE 学習支援及びカウンセリング担当1名、代替メディア専門担当1名等あわせて計9名のスタッフが DSPS の運営や障害学生支援を担っている。



図1 オーロニ大学正面

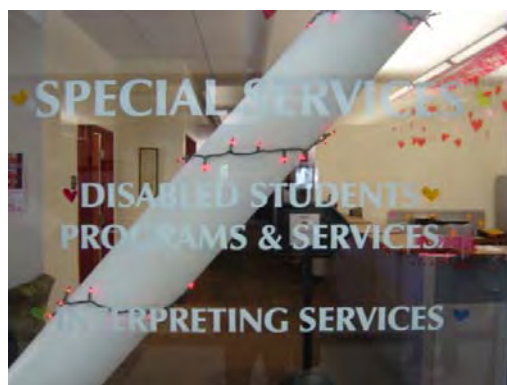


図2 DSPS の看板

DSPS が提供する支援サービスは表 2 の通りであり，学習面，心理面，キャリアの面，経済面など多岐にわたるサービスを提供していることがわかる。

表 2 DSPS における支援サービスの種類

① カウンセリング・サービス
登録及び placement test（クラス分け別テスト）の実施を優先的に行う 勉学上の特別な助言や授業プラン 障害を補う学習方略を活用した学習支援 キャリアカウンセリング 教職員と学校管理職との授業運営の調整に関する連絡 パーソナルカウンセリング 職業リハビリテーションの州機関との連携
② インストラクショナル・サービス
コミュニティカレッジレベルに相当する学習障害のある者に対する評価 数学，読み，書き，キャリア計画の学習スキルに関わる講義科目の提供 体育科目への適応 学習障害のある学生に対する学習支援のチューター派遣
③ 設備サービス
別室試験，試験時間の延長 ノートテイク テストや宿題の代筆及び代読 オーディオブックまたは電子ブック テクノロジーとソフトウェア，代替メディアによる援助の活用 しょうがい学生用の駐車場 移動の援助 拡大読書器

・ 学内における障害学生支援

オーロニ大学に入学した障害学生に対する支援の基本的な流れは，まず，入学の時期に障害学生対象のオリエンテーションを実施する。次に，障害学生本人から障害の有無を証明する診断書の提出がなされた上で，カウンセリング担当が，生育歴，教育歴，高校時代の学力レベル，通訳利用の有無などを把握し，必要な支援を講じる。心理的支援のために 2, 3 名のメンタルカウンセラーも配置されている。さらに，カウンセリング後に障害学生から支援を申請し，授業保障，試験時の時間延長や別室実施等の支援体制を用意したり教員への配慮事項の通達等のコーディネート業務が行われる。

ちなみに近年にみる予算削減の影響で，上記のコーディネート業務担当は本来なら 3 人以上の体制で行われるところを 1 人だけで担当している状況が生じている。以上のコーディネート業務は学期ごとに行い，次の学期に備えてクラス編成や支援体制を用意できるようにしている。

・ 高校に対する移行支援の取組

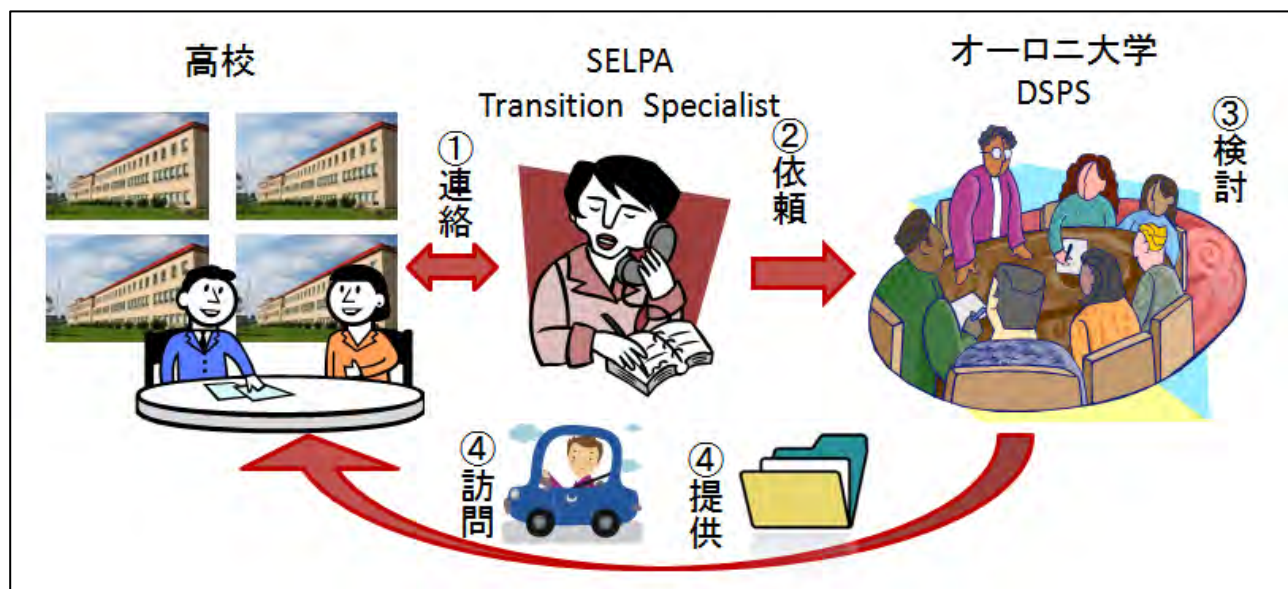
さて DSPS は，学内の支援対象である学生と教職員のほかに，DSPS の予算内で高校や特別支援学校に対する移行支援活動も実施している。

具体的な取組については、第一に、学区ごとに配置されている SELPA¹(Special Education Local Plan Area)Transition Specialist と密な連携のもと、高校を訪問して大学の特徴や進学の流れについて話し合う。DSPS は、SELPA からの依頼を受けて Ann とカウンセラーが移行支援のプランを検討し、誰がどの高校を訪問するのかを取り決める（図 3 参照）。Ann は主に特別支援クラスの訪問を担当する。なお、聴覚障害のある高校生に対しては、前述の Center for Deaf Studies に配置されているろうのカウンセラー（フルタイム 1 名、パートタイム 1 名）が担当することになっている。訪問時期は高校 2、3 年の春の学期に集中して行う。学校訪問の際、障害のある生徒本人だけでなく親も同席するようにお願いしているが、実際は親の同伴はあまりなく本人と高校教員だけで話し合うことが多い。障害のある生徒とは、「大学とは何か（コミュニティ・カレッジを中心に）」、「オーロニ大学はどのようなところか」、「どうやって大学に入るか」、「障害学生支援の内容は何か」について説明・助言している。

第二に、4 月中にオーロニ大学で障害のある高校生対象のオリエンテーションを開いて本人や親に説明したり問い合わせ受付窓口をおいて対応する。また、オーロニ大学で高校生対象のツアー（オーロニ大学在籍の障害学生と接触する機会、車椅子ツアー、視覚障害者ツアーなど障害別の企画もある）を行う。4 月頃のオリエンテーションやツアーでオーロニ大学への入学を決める事が多い。

第三に、オーロニ大学広報部門とも連携を図り、本人や高校に必要な資料を提供している。こうした 3 つの取組から、障害学生は、他の大学は知らないがオーロニ大学ならよく知っているということでオーロニ大学に入学してくる。

図 3 オーロニ大学 DSPS における移行支援の概要



¹ SELPA とは、誕生から 22 歳になるまでの障害のある個人に対して、学校とカウンティ教育局とともに継続的で一貫性のあるプログラムとサービスを提供する機関であり、このプログラムやサービスには、障害のある高校生が大学や会社への移行を達成できるようにサポートする Transition from School to Post Secondary Education and Employment が含まれている。学区ごとに 1～5 名の SELPA の Transition Specialist が配置されている。

・今後の課題

今後の課題は、オーロニ大学における学習障害の大学生の入学増加に伴い、学習障害のある高校生への移行支援を充実させる必要がある。現在、学習障害のある大学生に対し、月1回カウンセラーがワークショップを開催して「どうやって勉強するか」などあらゆる状況を想定した対処方法を一緒に考えたり学習障害のあるピアチューターによる学習支援も行っている。今後は、学習障害の大学生によるクラブを作るなどコミュニティを形成しつつ、高校3年の秋の段階で進学希望者が診断書を提出し、オリエンテーションクラスを開講して(半単位)、Placement Test を実施することで、スムーズに大学のカリキュラムに適應できるようにしたいと考えている。

しかしその一方で、カリフォルニア州や大学から配分される DSPS の運営資金が前年度と比べて 40%削減され、手話通訳が配置されるクラスの数が減ってしまうなどの問題が起きている。また、今の州の財政状況を鑑みても次年度には 50%削減される可能性が懸念されるという。このように今後もさらに低下していくであろう支援サービスの質をどのように保っていけばよいか非常に厳しい状況に置かれている。

②Center for Deaf Studies (ろう教育学部)

・Center for Deaf Studies の概要

Center for Deaf Studies (以下、CDS) は、聴覚障害学生の教育的及び職業的ニーズに応じて広範囲にわたるプログラムを開発・実施しており、アメリカ西部最大のろうセンターの1つである。1972年に設立し、現在は4つのプログラムが設置されている。①American Sign Language (ASL) and Deaf Studies Program (アメリカ手話とろうスタディ)、②Deaf Education (ろう教育)、③Deaf Preparation Program (入学準備プログラム)、④Interpreter Preparation Program (手話通訳者養成プログラム)。なお、③には聴覚障害学生のみ、④には健聴学生のみが入る。

また、CDSの学部長をはじめ、教員、カウンセラー、ASLインストラクタースタッフの大部分がろう者で構成され、CDSに在籍する聴覚障害学生も国内から200名、国外から27名と多く集まっている。この在籍人数は、もう一つの視察先大学である California State University, Northridge (カリフォルニア州立大学ノースリッジ校) に在籍する聴覚障害学生の人数250名に迫る。なぜ、小さな町にあるコミュニティ・カレッジにCDSが設立され、有名な総合大学に匹敵するほど多くの聴覚障害学生が在籍しているのだろうか。これは次の4点が理由として考えられる。(1) 1860年に設立したバークレー聾学校が1902年フリーモント市に移り、市全体で聾学校を支援してきた経緯があること。(2) 1966年に Ohlone College が設立された時に、同聾学校卒業生とコミュニケーションができるように ASL



図4 CDSの前にて



図5 Thomas氏と

クラスなど聴覚障害関係のクラスが開設されたこと。(3) フリーモント市にはデフ・コミュニティが非常に発達しており、権利擁護運動も活発に行われてきた歴史があること。さらに、(4) 後述するように、国内において唯一聴覚障害学生のみを対象にした入学準備プログラムであると思われる Deaf Preparation Program が高等教育への道を大きく切り拓いていることである。

Deaf Preparation Program (以下、DPP) について、DPP 担当の Thomas Holcomb 氏にインタビューを行った。Thomas 氏は、トータル・コミュニケーションを発案し、全米の聴覚障害教育に大きな影響を与えた Roy Holcomb のご子息であり、現在は、CDS 内の 3 学科、Deaf Education (ろう教育)、Deaf Preparation Program (入学準備プログラム)、Interpreter Preparation Program (手話通訳者養成プログラム) のスタッフを兼任する等、中心的な役割を担っている。

・ Deaf Preparation Program の特徴

DPP は、1973 年に開設し、1991 年から Thomas 氏がオーロニ大学に勤務してから DPP はより本格的な内容へ変わっていったという。現在、Thomas の下で指導する教員が 4 名ほどおり、チューターの確保も彼らが行なっており、DPP に在籍する聴覚障害学生の人数は毎年 150～200 人である。

米国のコミュニティ・カレッジは、学位を取得するコースを受講する学力に満たない学生でも受け入れ、Remedial/ Developmental Education として教育している。これはコミュニティ・カレッジの持つ重要なミッションの 1 つである。ただし現実には、そのクラスを受講する学力に満たない学生が、コミュニティセンターなどが提供する Adult Educational Program²で最低限の学力を身につけるように求められる場合もある。聴覚障害学生の中にもそのような学力レベルを有する学生も少なからずいる³。Thomas 氏は、そのような学生にこそ、通訳を用いたアクセスサービスによる環境ではなく、ASL を用いて直接的なコミュニケーションによって、また同じ境遇の学生と学べる環境を提供する必要があると述べている。DPP も、そのような理念に基づいて、あらゆる学力レベルのろう学生をサポートしているわけである。現時点で DPP のように聴覚障害者のコミュニケーション・ニーズや実態に特化したプログラムがあるコミュニティ・カレッジは唯一オーロニ大学だけである。このように、DPP とは、単に Adult Educational Program の対象や内容を聴覚障害学生用に変えたプログラムだけでなく、非常に学力が遅れている聴覚障害学生の教育的ニーズにも対応できるように必要なクラスを多く揃えておき、大学進学やコミュニティへの参加を促進することを目指したプログラムであるといえる。

数多くあるコミュニティ・カレッジのなかでオーロニ大学が聴覚障害学生のみを対象にした DPP を実施することができたのは、以下の理由によるとのことである。

² 例えば、カリフォルニア州では、移民やその 2 世 3 世などの人口が多いため、「Open Admission Policy」の理念に強く根差し、入学希望者は全て受け入れていこうという考えである。

³ 米国における聴覚障害児の読解力に関する大規模な調査の報告 (Witsken, 2001) によれば、17、18 歳の聴覚障害生徒群の平均的な読解力は、小学校 4 年生の健聴児童のそれと同様であることが報告されており、大学進学適性試験 (SAT または ACT) に合格するほどのレベルには程遠い。

1つは、前述したように聾学校をフリーモント市がバックアップし、オーロニ大学が設立された時も CDS が作られたなどの背景で学内に強固なろうコミュニティと権利意識が形成されているために、オーロニ大学理事会の意思決定や会議運営に積極的に働きかけ、そのおかげで資金が確保できていること。

もう1つは、オーロニ大学として、現在の主流であるインクルーシヴの理念、メインストリームに対し、それだけでは聴覚障害学生のニーズや実態を適切に考慮したプログラムを提供することは難しいということを全学的に認識していることである。

・ Deaf Preparation Program の教育課程

DPP で学ぶ聴覚障害学生は、クラス分け別試験 (placement test) を受け、のろうカウンセラーと相談して、どのようなクラスを受講したらよいか協議・決定したり、DPP を受けるために必要な経費 (プログラム受講料, テキスト代, 消耗品費, 交通費等) が不足する場合は VR (職業リハビリテーション) から出してもらう方法を学んで希望のクラスを申請する。ちなみに、DPP は、ろう教育学部の一学科である故、DPP を受ける聴覚障害学生はオーロニ大学には入学する、つまり「正規学生」の立場になることを付記しておく。

DPP では、聴覚障害学生のニーズに応じて以下の4コースが用意されており (表3)、コース別の人数は約50名である。DPP は、Associate of Arts Degree (以下、AA) のコースではなく、あくまでも Developmental-remedial Education として位置づけられ、Associate of Arts Degree のコースについていける学力を身につけることを目指す。但し、DPP には、ろうに関するトピックを扱う deaf education (ろう教育), deaf history (ろうの歴史), deaf culture (ろう文化) などのクラスも設置されており、これらは AA レベルのコースにも含まれる。つまり、このクラスを履修すれば、AA を取得、あるいは4年制大学に編入した際の卒業単位として含めることができる。なお、CDS の専攻の1つである、American Sign Language (ASL) and Deaf Studies Program で AA を取得するためには、メインストリームクラスで一般教養のクラスも履修しなければならないが、DPP にあるろうに関する AA レベルのコースをすべて修了すれば Deaf Education Certificate という修了証書を得ることができる。

・ 今後の課題

現在もなお、DPP を最後まで受講して修了できる割合は非常に少ないとの報告が出されている。また、家庭学習せずともクラスさえ受ければ合格できるのだろうと安易に考える聴覚障害学生の意識の低さの問題もある。今後も、聴覚障害学生が自分自身の学習動機を高め、自分自身の将来に向けて自立と責任ある行動をとることができるように、教育サービスとカウンセリングサービスの質的向上が求められているといえよう。

DPP の ASL クラスを受ける聴覚障害学生の中には、健聴学生との交流経験が少なく対人関係等を伸ばす必要がある学生がいるため、Interpreter Preparation Program (手話通訳者養成プログラム) の健聴学生との日常的な交流ができるように、来年度から両者を同じ建物にする。DSPS の話であったように今後も予算が削減される状況に対し、DPP の教育水準を維持できるかどうか懸念されるが、財源確保のために聴覚障害学生に多く入ってもらうことが大事になるとのことである。

表3 DPPにおける各コースの内容

① Deaf Education Certification Program : ろう学生対象修了資格取得プログラム	
概要	このコースを受けた場合, AA を取得, あるいはそこで取得した単位を4年制大学に編入した際の卒業単位として含める事ができる. 聴覚障害学生の関心や技量に合わせてろう教育分野の専門的な知識, 教育環境におけるろう児のコミュニケーション方法や言語の選択等の長所や短所について学ぶ. このクラスを履修するための要件として, ①ASL が流暢であること, ②英語で151B という4年制大学編入レベルの101A というクラスの1つ下のレベルのクラスをパスしていること. ただし, 実際にはカウンセラーとの面談を経てそれらを下回っていても履修できるとのこと.
授業科目の一例	<ul style="list-style-type: none"> ・DEAF-330 Educating the Deaf ・DEAF-331 Counseling the Deaf ・DEAF-332 Development of the Deaf Child
② Intensive University Preparation Program (IUPP) : 集中的な入学準備プログラム	
概要	1年ほどでAAのコースを履修できるよう集中的に英語の読み書き, 数学を指導する. この指導を通して, 英語が読めること, 議論できること, コミュニティ・カレッジレベルの読み活動に対応できること, 明確な構成で意見文や論文を書けること, 文法エラーが少ない英語で自分自身の考えを表現できること, 自主的に勉強を進めることができることなどが実現できることを目指す.
授業科目の一例	<ul style="list-style-type: none"> ・DEAF-172A Strategies for Successful Writing ・DEAF-173B Strategies for Successful Reading ・DEAF-175 Advanced English Grammar for Mainstreamed Students ・DEAF-176A Academic Vocabulary I ・DEAF-188A Intensive University Preparation: Academic Writing I ・DEAF-189A Intensive University Preparation: Academic Reading I ・DEAF-191 Human Potential Seminar
③ Community Education and Self Improvement Program : コミュニティ教育及び自己啓発のプログラム	
概要	対象は, 適切な教育を受けられず言語力や学力が伸びなかった聴覚障害学生や, 外国から来た聴覚障害学生に第二言語としての英語を指導する. 大学進学を目指した指導ではなく, 英語の読み書き, 対人関係, テクノロジー, コミュニティ意識の能力を引き出し, より社会的にも精神的にも自立できるように促進する.
授業科目の一例	<ul style="list-style-type: none"> ・DEAF-110A Introduction to English as a Second Language in American Sign Language ・DEAF-118A ESL Writing I in American Sign Language ・DEAF-119A ESL Reading I in American Sign Language ・DEAF-130A Literacy I ・DEAF-140A Lifeskills Mathematics I ・DEAF-141A Workplace Communication I ・DEAF-145B Job Seeking Strategies for Deaf Students ・DEAF-147B Citizenship: One's Role ・DEAF-148 Community Service ・DEAF-160A Personal and Social Awareness I ・DEAF-161 Introduction to the Deaf Community
④ Direct Employment Program : 職業指導プログラム	
概要	大学に進学しなくとも就職できるように必要な知識, 技術, 態度を身に付けることを支援する. あるいは, 就職できなくとも職業的自立に必要な英語力を向上させる目的もある. 40代以上の聴覚障害者が受講する.
授業科目の一例	<ul style="list-style-type: none"> ・DEAF-165 Study Techniques: MS Word, MS Excel, and MS Access ・DEAF-166 Study Techniques: Introduction to Multimedia Photoshop, MS PowerPoint, and MS Publisher